



愛川ふれあいの村 1月の風景

平成26年 1月 自然のたより

年末年始の静かな村には、タヌキをはじめ、野生生物が村にきています。ドングリの食痕や、足跡、盛り上がった土などの置き土産がたくさんありました。太陽が霜を溶かす頃、鳥たちが活動を始めます。昆虫と植物は眠ったように静かにしています。そして、ロウバイの花は一輪、二輪とほころんでいます。



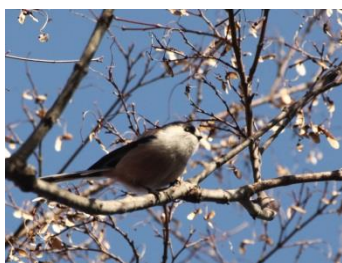
アカボシゴマダラの幼虫



赤い実をついばむツグミ



村にやってきたタヌキ



マシュマロに似たエナガ



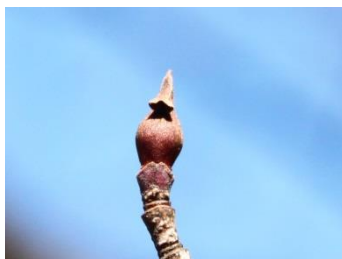
下を見回しているイカル



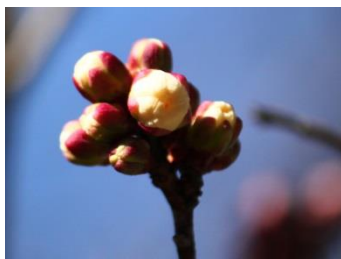
丸いシジュウカラ



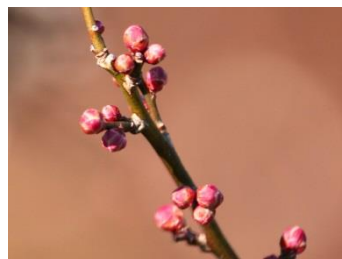
羽を膨らませているモズ



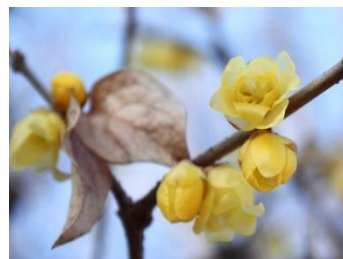
ヤマボウシの冬芽



膨らんだ^{はくばい}白梅の蕾



^{こうばい}紅梅の固い蕾



開花した^{ろうばい}蟠梅



ニホンリスのシルエット



木の皮が剥された痕



ムササビの食痕



アナグマの巣穴

